

## ◆ 諸言

待ちに待った Legacy1 (レガシー・ワン) インプラントシステム (図 1) の国内発売が、昨年 10 月に開始された。

本システムは歯科材料メーカー最大手 Kavo Kerr グループの Implant Direct 社 (米国) から供給されている。昨年、同社は世界市場において売り上げが前年比 42% 増という、業界の状況を鑑みても驚異的な成長を見せている。

開発者は Dr.Gerald Niznick である。氏は「Screw-Vent システム」等数多くのインプラントの開発者として、あるいはインターナルコネクションをはじめとする数多くの特許を取得した、インプラントの世界では著名な人物である。

その彼が本システムに名付けた「Legacy」には「大いなる伝承物」、「後世に受け継がれてゆくもの」という意味がある。本システムは文字通り、伝統的な (従来インプラントの) コンセプト・特徴等を受け継ぎながら、さらに進化して洗練し続けるという意味が込められたネーミングであると筆者は理解している。

## ◆ Legacy1 インプラントの特徴

Legacy1 インプラントの形態的な特徴に、ネック部に付与されたミニスレッド (4 条ネジ) がある (図 2)。皮質骨部に収まるネック部のデザインは、埋入トルクに大きな影響を与える。Legacy1 はミニスレッドにより皮質骨にタップを切りながらの埋入になるため、埋入トルクが過大にならないよう抑制される。さらに皮質骨の部分にスレッドによる緊密な接触が得られ、インプラント治療の成功に重要な初期固定を高めることにも繋がっている。また、経時的な骨のダウングロス抑制する効果も期待でき、昨今他システムのネック部に見られる小さな「グループ」デザインと比較 (図 3) しても、非常に考えられた Dr.Gerald Niznick らしいアイデアである。

二つ目の特徴はテーパードボディ部に付与されたダブルリードスレッド (2 条ネジ) である。この形態とスレッドの構造も、適切な埋入トルクを発現するために一役買っているものと思われる。

三つ目は「コストパフォーマンス」である。本システムは、彼が以前開発したインプラントと共通のコンセプトを有するが、決して

「コピー」あるいは「ジェネリック」という括りには収まらない進化を遂げ、インプラント体のデザインに斬新な機能が付与されている。にも拘らず、かなりリーズナブルな価格設定となっていることはユーザーにとっては大変有り難いことである。

これらデザイン・機能・価格に関する特徴は、Dr.Gerald Niznick のインプラントを今まで使用していなかった方々にとっても十分魅力であろうと考える。

## ◆ 症例

患者年齢および性別：49 歳、男性

初診日：2014 年 6 月 14 日

主訴：下顎臼歯部に歯を入れたい

現症：下顎 76-67 欠損 (上顎 76-67 の挺出)

通法に従い口腔内の衛生状態を改善した後、速やかに欠損部に Legacy1 インプラントを埋入し、その治療期間を利用して他の箇所の治療を行うことで全体の治療期間を短縮する計画とした。

SIMPLANT® を用いて骨形態・骨質を精査し (図 4)、インプラント体の直径、長さ、及び 3 次元的な埋入ポジションを決定した。

抜歯即時埋入の右側 7 番以外は骨質が硬固質であったため、CBD ドリル (図 5) を最終ドリルとしてインプラント窩を慎重に形成した (図 6)。このことでさらに良好な初期固定が得られた。

クリアランスが十分でないことから、補綴の様式はスクリューリテイタイプとした。ISUS のチタンフレームにハイブリッドレジンを築盛した補綴物 (図 7) を 30Ncm のトルクでインプラント体に締結し、精密な咬合調整を行った (図 8)。

患者は快適な咬合機能の回復を大変満足したが、今後は力のコントロールを精密に行いながら継続的な経過観察が必要である。

## ◆ 結言

インプラントの成功のためには、適切なポジションに適切なトルクで埋入し、良好な初期固定を獲得することが必要である。

その意味においても、Legacy システムは「伝統的なコンセプト・特徴等は受け継ぎながら、さらに進化して洗練されたシステム」となっていると思われる。

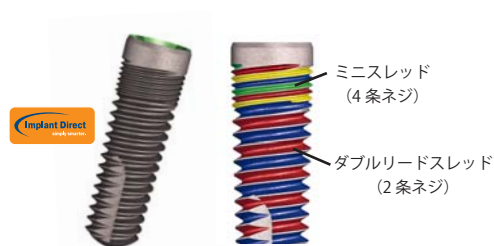


図 1: Legacy1 インプラント。

図 2: Legacy1 のスレッドデザイン。



図 3: ネック部のデザイン。ミニスレッドとグループ。



図 4: 術前のパノラマ X-Ray 写真と SIMPLANT® 画面。

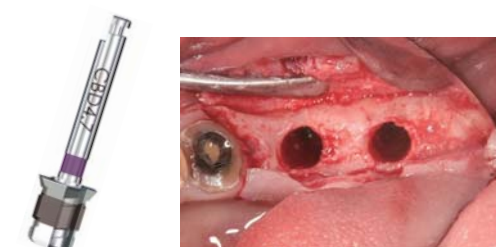


図 5: CBD ドリル。

図 6: 形成されたインプラント埋入窩。



図 7: ISUS によるチタンフレームにハイブリッドレジンを築盛、スクリューリテイニング設計とした。



図 8: 補綴物を 30Ncm のトルクでインプラント体に締結。精密な咬合調整を行った。